

# 景観形成の考え方

横浜スタジアム増築・改修計画

# はじめに

## 横浜スタジアム増築・改修計画 事業の目的

横浜スタジアムは、ハマのシンボルとして、横浜公園野球場、ゲーリック球場、平和球場と名称を変え、多くの横浜市民や全国の野球ファンの皆様に愛され、そして、支えられ、変貌を遂げてきました。

昭和53年のオープンから38年が経過し、この間、時代の変化やお客様のニーズに合わせ、幾度となく改修等を繰り返し今日に至っていますが、施設の老朽化、競技環境と観客サービスレベルの低下が課題となっています。

横浜スタジアムが、ハマのシンボルとして多くの市民に長く愛され続け、関内・関外地区のにぎわいに寄与し、併せて、東京オリンピック競技大会の野球・ソフトボールのメインスタジアムとして、大会を成功に導く場となるよう改修計画事業を行うものがあります。

## 景観形成を図るにあたって

本計画は、横浜公園が敷地となっています。公園内にはネットワーク街路が通過しており、都市プロムナードに面した敷地となっています。また、日本大通りから目に留まる場所となっています。本施設は、すでにハマのシンボルとなる都市景観を形成しており、その景観の持つ魅力を損なうことないよう配慮した計画であるとともに、公園内により多くのにぎわいを生み出す工夫を盛り込んだ計画としています。

## 目次

本計画の位置づけ	01
景観計画上の敷地の位置づけ	02
計画概要	03
景観形成の具体的な提案	04
現況とボリュームの関係整理	05
景観形成計画①(遠景)	06
景観形成計画②(中景)	07
景観形成計画③(近景)	09
緑化計画	13
夜間景観	14
立面図	15

## 『市民に開かれたボールパーク』

横浜スタジアム、横浜DeNAベイスターズ、横浜公園が一体となり、横浜の街のランドマークとして、

「市民に開かれたボールパーク」

へと生まれ変わります。

### 「公園と球場」から、一体的な「ボールパーク」への転換

横浜公園と横浜スタジアムを一体的にバリューアップし、関内エリアのブランディングにおける新たな交流拠点、観光拠点とします。  
そして「公園と球場」のように隔てられていた横浜公園と横浜スタジアムを、一体的な「ボールパーク」へ転換することで、横浜のまちづくりの資源及び拠点としていきます。

### 実現に向けた取り組み

## 『Legacyの正統なる継承』

約40年間市民に愛され続けてきた横浜のシンボルとしての横浜スタジアムの価値を次の世代へと継投します。  
また、横浜の発展とともに歩んできた横浜公園の歴史への敬意をもった計画とします。

### 新たな市民開放の提案

- ・開かれたスタジアムの強化
- ・公園内の新たな視点場の創出
- ・横浜公園、横浜スタジアムの歴史を発信する展示スペースの設置

### 周辺に対する にぎわいの創出と 回遊性の向上

- ・二つの正面に新たなゲートを創出
- ・公園内の回遊性向上によるまちのアクティビティの強化
- ・店舗やテラスの設置による公園利用者の利便性の向上

### 歴史資産としての 横浜スタジアムの継承

- ・横浜スタジアムのデザイン分析とその継承
- ・スポーツ目的以外の公園利用者への配慮
- ・横浜公園の歴史性を踏襲し、ミナト横浜を感じさせる計画

### 造園デザインによる 緑環境の向上 新たな横浜の顔の創出

- ・人々を迎え入れるゲートに緑化を設け、新たな顔を創出
- ・緑地の立体化、新たな視点場の創出による公園機能の向上
- ・日本庭園と連動し、四季を感じる緑化計画

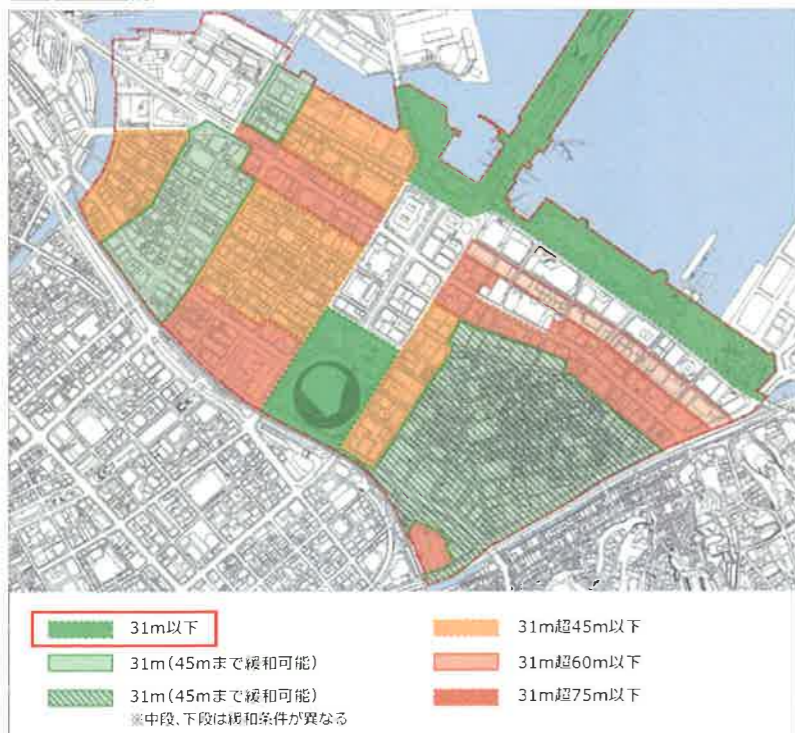
## ■ 横浜市景観計画における当敷地の位置づけ

計画図1の2 歩行者ネットワーク・広場等



市内各エリアを結ぶネットワーク街路に面する

計画図1の5 建築物の最高高さ



建築物の高さは31m以下を遵守

計画図1の3 見通し景観・眺望景観等



山下公園以外からの眺望景観に配慮する必要がある

計画図1の8 景観重要公共施設



景観重要都市公園であり、2本の景観重要道路に面する

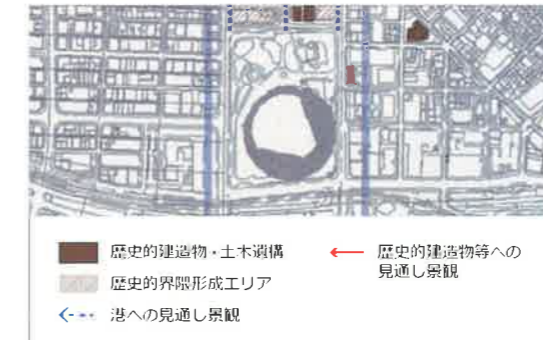
## ■ 関内地区景観ガイドラインの各方針と当敷地の位置づけ

方針Ⅰ わかりやすく、奥行きと賑わいのある界隈を巡り歩いて楽しめる街を創る



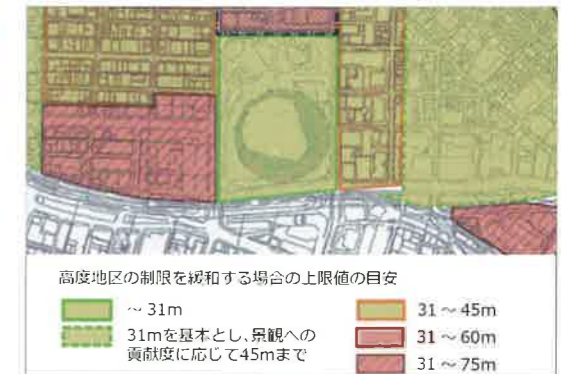
ネットワーク街路及び都心プロムナードに面している

方針Ⅲ 開港の歴史や文化の蓄積を活かしながら新しい文化を生み出す街を創る



港への見通し景観への配慮や確保が必要

方針Ⅱ 関内地区の街並みの特徴を生かし、ミナト横浜を感じる眺望が楽しめる街を創る



建築物の高さは31mで原則として緩和もない

方針Ⅳ 多様な都市機能がコンパクトに複合する、活力ある街を創る



開港シンボル軸に属している

### ■ 主要な景観計画上の位置づけ

- ① ネットワーク街路及び都心プロムナードに面している
- ② 山下公園以外からの眺望景観の視点場に属する
- ③ 景観重要都市公園であり、2本の景観重要道路に面する
- ④ 開港シンボル軸に属する

### ■ 満たすべき上位方針

#### 横浜市景観計画における関内地区全域の方針

- (1) ゆとりある歩行者空間を連続的に形成する。
- (2) 通りの低層部のしつらえを工夫して、連続性のある賑わいを創出する。
- (3) 人々に交流を促す快適な広場状空地を創出する。
- (4) 緑化や水際の活用により、まちに潤いを創出する。
- (5) 関内地区の街並みの特徴を生かす。
- (6) ミナト横浜の歴史を大切に、関内地区の魅力・個性を伸ばす。
- (7) 中層、高層の建築物は、デザインを工夫し、魅力ある街並みを形成する。
- (8) 港や丘などからの眺望景観が魅力的になるよう工夫する。
- (9) 関内地区の新しい魅力を創出する。
- (10) 秩序ある広告景観を形成する。

#### 横浜市景観計画における公園施設設置基準

- A 公園内の設備及び施設などは、関内地区の中心に立地する歴史ある公園としてふさわしい形態を確保する。
- B 公園周囲のスクラッチタイトルの敷地が形成する、周辺の建築物と調和した景観を維持する。
- C 日本大通り及びみなと大通りに面している出入口部分は、人々が滞留することができるゆとりある空間を確保する。
- D 公園内の施設に設置する屋外広告物は、広告面の背景色を当該屋外広告物が設置される外壁と同じ色又は無彩色とする。

左記上位方針を満たす景観形成を行います。



## 計画概要

地名地番 : 横浜市中区横浜公園  
 用途地域 : 商業地域  
 防火指定 : 防火地域  
 高度地区 : 第7種高度地区  
 その他の区域指定 : 特別用途地区(横浜都心機能誘導地区)  
 駐車場整備地区、景観計画、都市景観協議地区

敷地面積 : 63,787.16㎡  
 建蔽率 : 80%(都市公園法12%)  
 容積率 : 700%

## 建築概要

主要用途 : 観覧場(野球場)  
 延床面積 : 約46,000㎡  
 建築面積 : 約23,100㎡  
 建蔽率 : 約37%  
 階数 : 地上4階  
 建築物高さ : 最高高さ 31m

## 増築・改修後の増席数

**約6,000席**

## ① 新たな市民開放の提案

### 1-1 近景 | P.09

1階や、2階回遊デッキから内部を望めることができるスタジアムを実現します。



回遊デッキ上からスタジアム内が見えるゲートを計画することで、球場の熱気を公園内に波及させ、賑わいをもたらします。

### 1-2 近景 | P.09

屋上テラス席、2階回遊デッキ上に新たな視点場を設ける他、回遊デッキ上でのイベントの実現も目指します。



高層部への屋上テラス席の設置(試合時以外は用途を限って開放)や、回遊デッキ上から見るチューリップガーデン等、新たな視点場を設ける他、回遊デッキ上のイベント実施で市民開放を実現します。

### 1-3 近景 | P.10

展示スペースを設け、横浜公園や横浜スタジアムの歴史を発信します。



公園設置の背景や歴史に関する資料や、スタジアムの歴史の情報を発信していきます。

## ② 周辺に対する賑わいの創出と回遊性の向上

### 2-1 近景 | P.11

関内駅側及び、日本大通り側の二つの正面にゲート設けることにより、人々を公園へと誘導します。



横浜公園の顔である関内駅側及び日本大通り側に、ゲートをつくることで、歩行者を公園内に誘導し、園内の賑わい形成を促します。

### 2-2 中景 | P.07

回遊デッキの設置により回遊性を向上させます



回遊デッキにより公園を回遊しやすくなる上に、回遊デッキ上の公園散策やランニング等、公園活用の幅が広がり、スポーツを核としたまちづくりに貢献します。

### 2-3 近景 | P.10

回遊デッキ下部への店舗設置により賑わいを創出します。

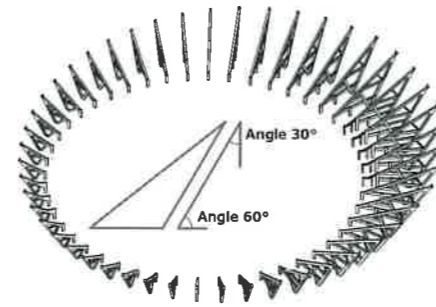


回遊デッキ下部に店舗を設けることで、公園利用者の利便性も向上する上に、買い物等の人々で賑わいが生まれます。

## ③ 横浜らしさを考慮した建築デザイン(スタジアムとの連続性・公園との繋がり)

### 3-1 中景 | P.07

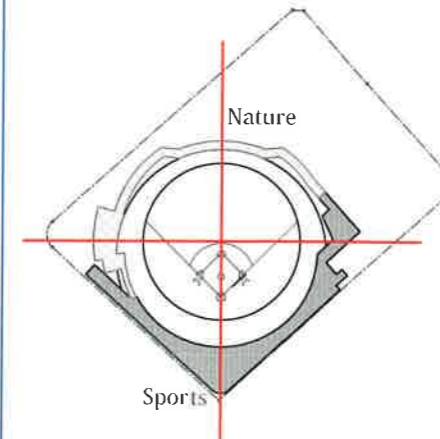
既存スタジアムが形成する景観の要素を分析し、計画へ反映します。



既存の横浜スタジアムが持つ建築の形態的な要素を分析し、計画に反映することで、周囲の街並みとの調和を図ります。

### 3-2 中景 | P.07

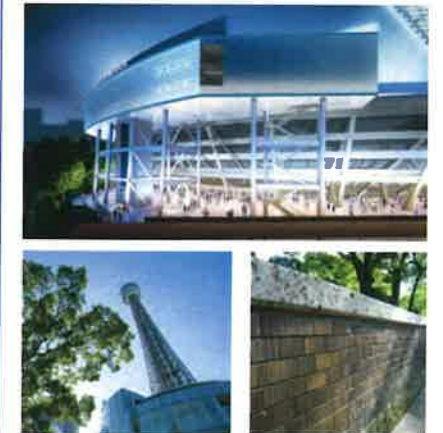
公園利用者に配慮した配置計画とされています。



公園内の歩行者や、噴水、日本庭園など既存の歴史的資産への配慮を行った合理的な配置計画とすることで、スタジアムだけではなく、公園の価値も向上させる計画とします。

### 3-3 中景 | P.08 近景 | P.12

ミナト横浜・横浜公園の歴史性を取り入れた計画とします(船をイメージした外観・素材)。



横浜開港の歴史を象徴する意匠や、ベイエリアに立地する横浜のシンボル(マリンタワー・日本丸などの帆船)及び空・横浜公園の歴史との色彩の調和を図る計画とします。

## ④ 造園デザイン再構築と緑環境の向上

### 4-1 近景 | P.13

緑化を推進する横浜の新たな顔づくりを行います。



関内駅側のゲート部分に緑化を施すことにより、緑化を推進する横浜らしい緑の顔づくりを行います。

### 4-2 近景 | P.13

壁面緑化並びに新たな視点場を創出し、公園機能を向上させます。



壁面緑化や手摺の緑化を行うことで立体的な公園とすると共に、日本庭園や公園内の樹木への新たな視点場を設けることにより、公園機能を向上させます。

### 4-3 近景 | P.13

日本庭園とスタジアムの関係を高め合うことを考えます。



日本庭園側への圧迫感抑えつつ、四季折々で表情を変える種類の植物を用いることにより、双方の緑を活かした、四季を感じる緑化を行います。



近景① 関内駅から見る



近景② 市庁舎横の交差点から見る



近景③ みなと大通りから見る



近景④ 日本大通りから見る



近景⑤ 日本庭園側から見る



近景⑥ 根岸線側から見る



中景⑦ 日本大通りから見る



中景⑧ 中華街側から見る



遠景⑨ 大棧橋からの眺望景観



遠景⑩ イタリア公園からの眺望景観

## 景観形成を行うための三つの視点「遠景」、「中景」、「近景」

本計画の景観形成は計画地との距離によって「遠景」、「中景」、「近景」といった考え方で分類し、検討していきます。



### 遠景. 眺望の視点場からの景観に配慮

- ・既存の視点場である大栈橋、イタリア公園からの眺望を損なうことのない計画とします。
- ・歴史的建造物が佇んでいる日本大通りからの景観に関しては、スタジアムが存在感を主張しすぎないように既存のデザインを踏襲します。

### 中景. 既存の横浜スタジアムのデザインを踏襲し、横浜公園全体の価値を更に高めます

- ・関内地区に立地する歴史的建造物群を地域資源とし、それらを残していくという横浜市都市計画の在り方に沿った景観形成を行います。
- ・横浜スタジアムを歴史的都市景観として捉え、現在の街並みを保全するために既存のデザインを踏襲した計画とします。

### 近景. 開かれたスタジアムとすることで、賑わいを創出

- ・開かれたスタジアムとすることでスタジアム内部賑わいを公園に波及させます。
- ・分棟による増築とすることで、歩行者動線を保全します。
- ・二階レベルに回遊デッキを設けることで、公園内の回遊性を向上させます。
- ・回遊デッキ下に店舗を設け、賑わい形成に寄与します。

## 日本大通りからの視点

既存スタジアムの外観デザインを踏襲し、白を基調とし、日本大通りの歴史的建築物の眺望を損なわない遠景デザインとします。高層部は必要以上の照明を点灯しないことで、日本大通りの夜景を保全します。



## 各視点場からの眺望

遠景の視点場としては大栈橋、イタリア公園から見える。両視点場から共に改修後の増築部分が見えてくるが、両眺望に大きな影響を与えることはない。

### ■大栈橋からの眺望



増設前：大栈橋からは照明塔のみが見える



増設後：増設部が見えるが、スカイラインに影響を与えない

### ■イタリア公園からの眺望



増設前：イタリア公園からも照明塔のみが見える

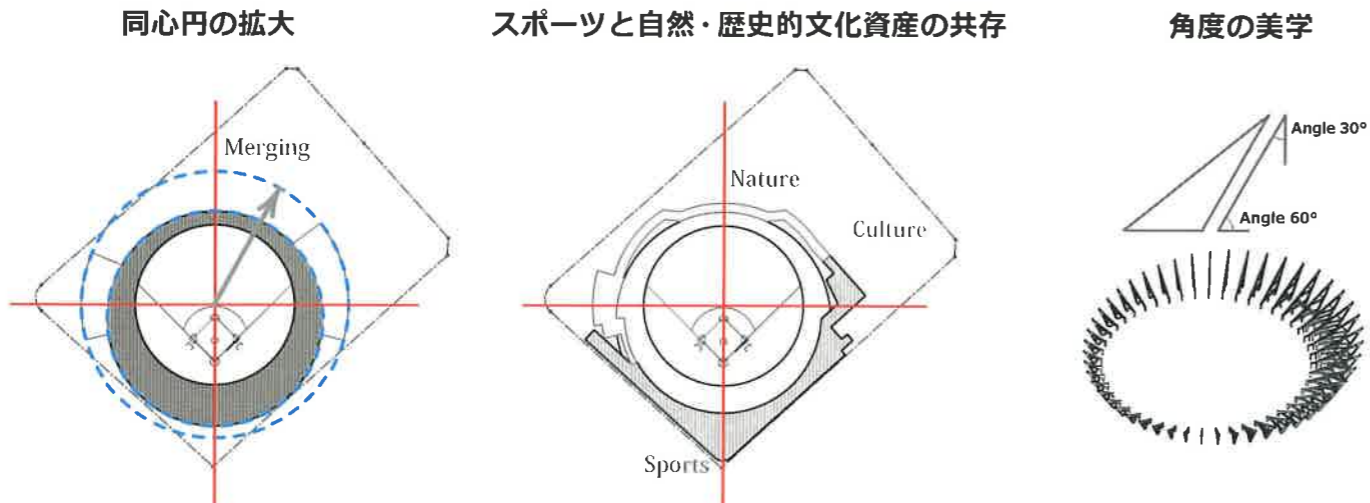


増設後：増設部が見えるが、景観に影響を与えない



## 既存横浜スタジアムを含む横浜公園の特徴を分析 3-1

我々はこの大規模改修プロジェクトを『ハマのシンボルである横浜スタジアムの歴史資産保存である』と捉えることから始めました。



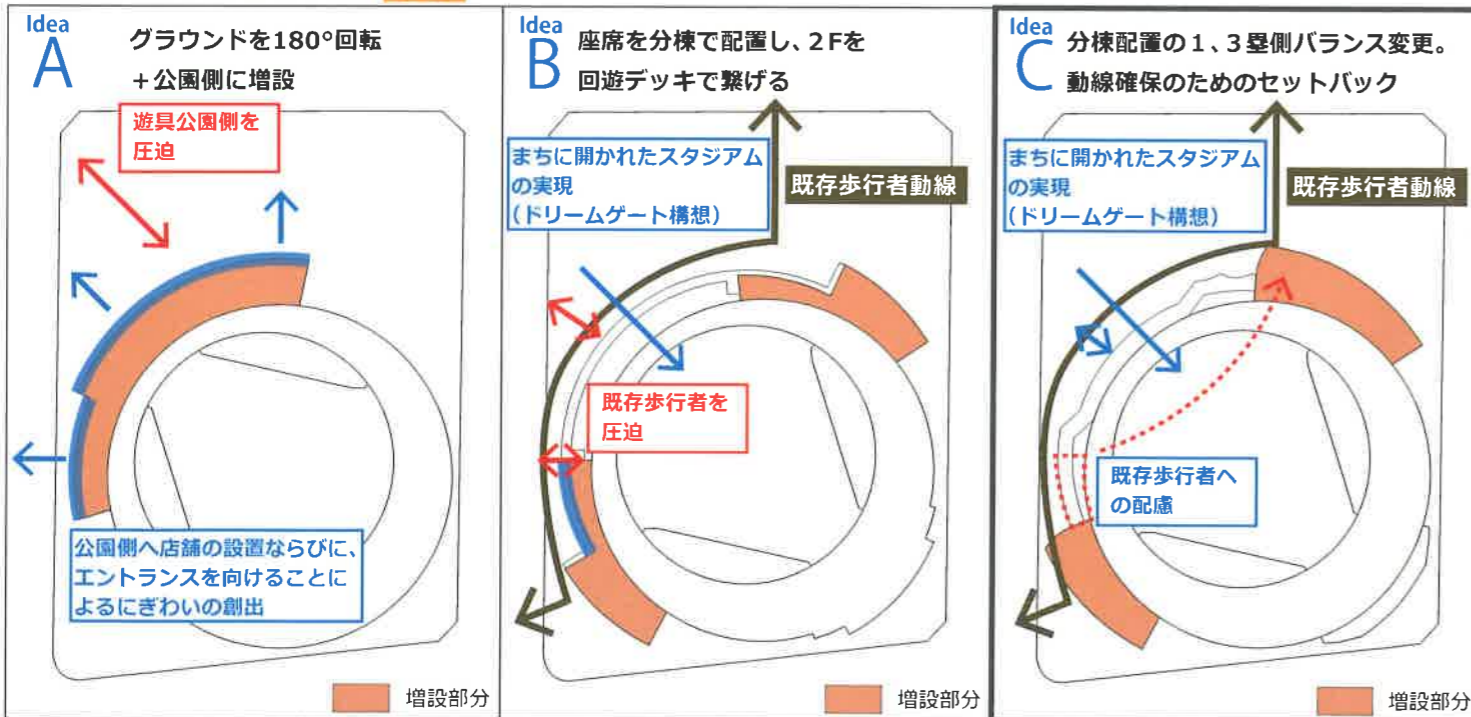
同心円の拡大  
正円を組み合わせた平面構成を崩すことのない、同心円に増席部分を配置し、既存スタジアムの形態との連続性をもたせま

スポーツと自然・歴史的文化的資産の共存  
明治期より続く、スポーツと都市公園としての自然・文化的要素の共存関係を横浜公園の大切な特徴として捉えます。

角度の美学  
運動施設とそれ以外の公園利用者との共存を実現するためのすり鉢状の建築形態は、横浜関内エリアのシンボルをつくる要素として踏襲します。

## 同心円配置計画の検討

本計画案にいたるまでには、いくつかの観点から野球利用者のみではない様々な公園利用者への配慮を盛り込んだ案を検討いたしました。 3-2



Idea A  
増席部分が公園内に向くため、低層部に設けられた店舗等により公園との一体感が増す。遊具公園側利用者への影響が大きく、バザー等の開催ができなくなる。

Idea B  
分棟配置での増設により、ドリームゲートを活かしたまちに開いたスタジアムが実現可能。既存歩行者動線を圧迫していることによる影響が大きい。

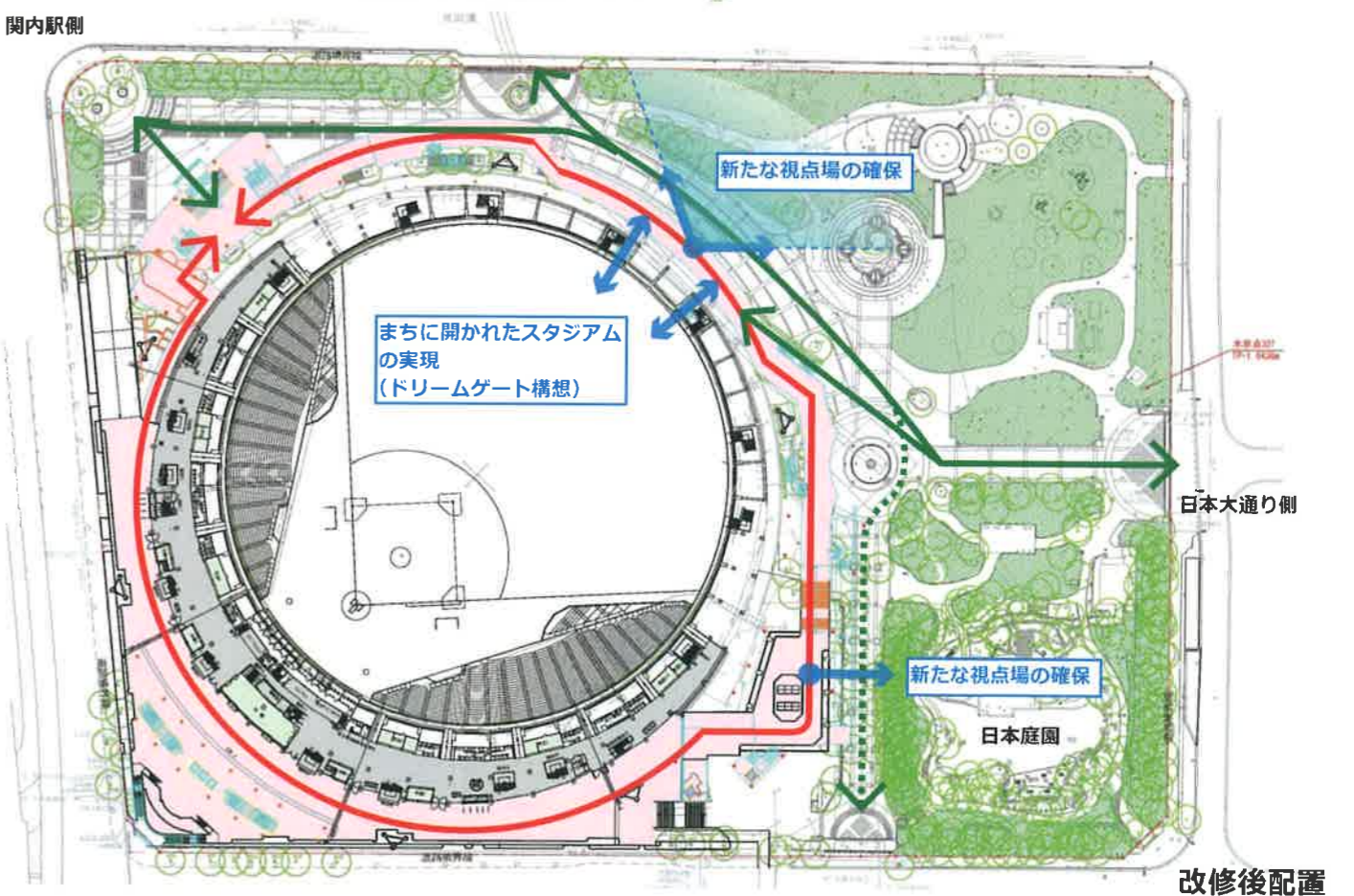
Idea C  
まちに開いたスタジアムが実現可能であり、既存公園歩行者への動線を配慮したセットバックさらには、座席配置の変更を盛り込んだ配置計画。

## スポーツゾーンと自然・文化ゾーンとの関係を強める回遊デッキ



公園のふたつの側面をひとつの魅力として高める、都市公園機能の強化

既存の横浜公園の使われ方は、スタジアムを利用する南側ゾーンと、遊具公園や、噴水まわり、さらには日本庭園をもつ北側ゾーンと大きく分けられています。今回の増改修計画によって、既存の人工地盤に接続する2階レベルに回遊デッキを設けることで、スタジアムの周りを周遊することが可能になります。これにより、公園全体を使ったスポーツ(ランニング等)機能の強化、更には、公園の自然や歴史的遺産を眺める新たな視点をもった立体公園へと発展させます。



Central Park in Yokohama  
回遊デッキを整備することで、都心部でありながら、緑のなかを走るエリアとして特徴をもったコースになります。横浜のスポーツを中心としたまちのにぎわいづくりに貢献します。

## 既存スタジアムのもつふたつの角度による形態を継承します



### 構造様式の異なる既存と増築部分との調和をはかる形態ルール

既存スタジアムが鉄骨を内蔵したコンクリート造であるのに対して、制約のある横浜公園内に増築する部分は鉄骨造によってつくられます。  
構造形式が違うことで、既存との見え方は異なってきます。それらふたつの構造物を一つの調和がとれた建築としてみせるために、既存スタジアムが持つ、30度と60度によってつくられた数学的な角度の美しさを増設部分にも用います。

## 空・ミナト横浜のシンボル・横浜公園の歴史と調和する色彩計画



### 色彩計画における三つの視点

- ① 空との調和(青・白)**  
周辺に高い建物がなく、空が広く見えるため、スタジアムを見上げた時の空との調和に配慮します。
- ② 周辺に立地する横浜のシンボル群との調和(白)**  
ベイエリアに立地する港町横浜のシンボル(日本丸、マリンタワー等)との調和を図ります。
- ③ 横浜公園の歴史との調和(スクラッチタイル)**  
横浜公園と日本大通りの歴史的關係を物語るスクラッチタイルを用いることで、公園の歴史への敬意を示します。

### 青色の使い方の考え方

一般の公園利用者との接点であるドリームゲートに青色を使うという考え方を踏襲し、階段やEV等、スタジアムへアクセスする部分に、サインの一部として青色を使用します。



## 歴史的なつながりを現代に残す横浜公園について

### ■ 横浜公園と日本大通りエリアの近代建築との関わり

1876年(明治9年)に開園した歴史ある都市公園である横浜公園は、日本大通りの発展と深く関わっている。特に、1923年(大正12年)に発生した関東大震災後には、日本大通りの複数建築物と横浜公園の歴史的遺産が同時に整備されており、景観を構成する要素としてスクラッチタイルが用いられ、現在は産業遺産に登録されている。  
<横浜公園と関わり深い代表的な建築物(下記赤枠)>

- ・神奈川県庁舎(1928年竣工)
- ・旧関東財務局(1929年竣工)
- ・横浜海洋会館(1929年竣工)

### ■ 野球場発祥の地としての歴史

1929(昭和4)年、関東大震災復興事業の一環で日本初の野球場である「横浜公園球場」が竣工した。1934(昭和9)年にはパイプ・ルースやルー・ゲーリックを擁する全米チームが来日し、全日本チームと試合を行うなど賑わいを見た。終戦後、野球場は接收を受け米軍専用となり、大リーグの選手にちなんで「ゲーリック球場」と呼ばれた。1952(昭和27)年に接收が解除されると、「平和球場」と改称され市民に親しまれてきた。



### ■ 明治末期に建造された日本風築山林泉型庭園の名残り

明治期に造られた日本式庭園を横浜スタジアム建設時に更新したのが、現存する日本庭園である。  
スポーツ施設と同じ都市公園内に日本庭園が存在することからも、市民にとって憩いの場を提供する重要な施設であったことをうかがい知ることができる。

### ■ 横浜の緑化へのとりくみを体現する都市公園として

3代目となる噴水を中心とした横浜公園は西洋式庭園を基盤としているため、樹木が生い茂った、潤いのある都市公園となっている。  
さらには、2009年以降横浜市の花であるチューリップを全面的に植える取組は市民に定着し、楽しまれている風景をまちに提供している。



## 公園利用者へのメリット

- 公園とスタジアムを視覚的に繋ぐことで、公園側にスタジアムの賑わいや活気を波及します
- 各視点場は試合時以外に開放し(屋上テラス席は用途を限って開放)、市民に新たな眺望を提供します
- 店舗や展示スペースの設置により、全来園者が楽しめる賑わいスペースをつくれます
- 回遊デッキ上をイベントに活用することができ、幅広く公園を楽しむことができます



## 近景に関わる具体的な提案

### A ドリームゲートの強化 1-1



既存ドリームゲート

スタジアム内の様子を覗くことができるドリームゲートをさらに発展させ、既存の1階だけでなく2階回遊デッキにも設けることで、球場の熱気や賑いを公園側に波及する計画とします。



回遊デッキから球場内部の雰囲気を感じるドリームゲート(イメージ)

### B 新たな視点場の確保 1-2

回遊デッキが市民の憩いの場として機能するように、新たな視点場を設けます。



屋上テラス席から横浜市街地を望む  
※屋上テラス席はイメージであり今後変更の可能性があります



回遊デッキからチューリップガーデンを望む



回遊デッキから日本庭園を望む



## C 展示スペースの設置 1-3

1階壁面等を利用し(場所は未定)、横浜公園や横浜スタジアムの歴史を展示・発信します。



## D 店舗による賑わいの創出 2-3

回遊デッキ下に店舗を分散することで、公園利用者の利便性を向上させ、新たな賑わいを創出します。



## E 回遊デッキ上下でのイベント実施 1-2

回遊デッキは、イベント時に活用できるような設えとすることで、市民開放を促します。



開港記念バザー

回遊デッキ上にコンセントなどの設備を整備することで、動線やランニングコースとしての機能だけでなく、イベント開催時に、回遊デッキ上での出店や活動を可能とすることで、市民開放を実現します。

さらに、横浜公園で開催される花と緑の春フェア等は回遊デッキが新たな視点場になるほか、ヨコハマシティウォークでは回遊デッキがコースの一部にも使用できるなど、様々な使い方が考えられます。



よこはま花と緑の春フェア



ヨコハマシティウォーク

## F 二つのゲート空間の演出 2-1

### 関内駅側ゲート

#### Idea 01 同心円状の増設



**形態・機能**  
・既存スタジアムの円形に配慮した同心円状の増設

**色・素材**  
・ミナト横浜を象徴する周辺のシンボル(マリンタワー、日本丸等帆船)で用いられている白を基調とし、空との調和、既存スタジアムのシンボル性の継承といった観点から一部青を用いた色彩計画

ゲート空間としての設えが不十分

#### Idea 02 圧迫感の軽減・ゲート空間の演出



**形態・機能**  
・躯体平面形を一部変更し、セットバックさせることで公園への圧迫感を軽減  
・大階段を設け、エレベーターシャフトを門に見立てることによるゲート空間の演出

**色・素材**  
・ミナト横浜としての周辺のシンボル、空との調和のための青と白の採用

同心円状の増設を基本とした平面計画の破綻

#### Idea 03 同心円状の増設・ゲート空間の演出



**形態・機能**  
・既存スタジアムの円形に配慮した同心円状の増設  
・大階段を設け、エレベーターシャフトを門に見立てることによるゲート空間の演出

**色・素材**  
・躯体低層部とゲートを演出する門へのスクラッチタイルの活用による公園との調和  
・躯体上部は青と白を用いることで、空との調和、シンボル性の確保を実現

同心円状の増設を保持したままゲート空間を演出

### 日本大通り側ゲート

#### Idea 01 噴水の形態に配慮・赤レンガの活用



**形態**  
・既存の噴水の形態と調和した意匠

**色・素材**  
・噴水の背後にレンガの壁を設けることで日本大通りから噴水への軸線を考慮

噴水への軸線が弱い・赤レンガの公園の雰囲気と不調和

#### Idea 02 噴水を強調する意匠・スクラッチタイルの活用



**形態**  
・噴水の存在を強調する意匠

**色・素材**  
・噴水背後の壁及び回遊デッキにスクラッチタイルを用い、噴水を強調

スクラッチタイルの活用した意匠と既存躯体との不調和

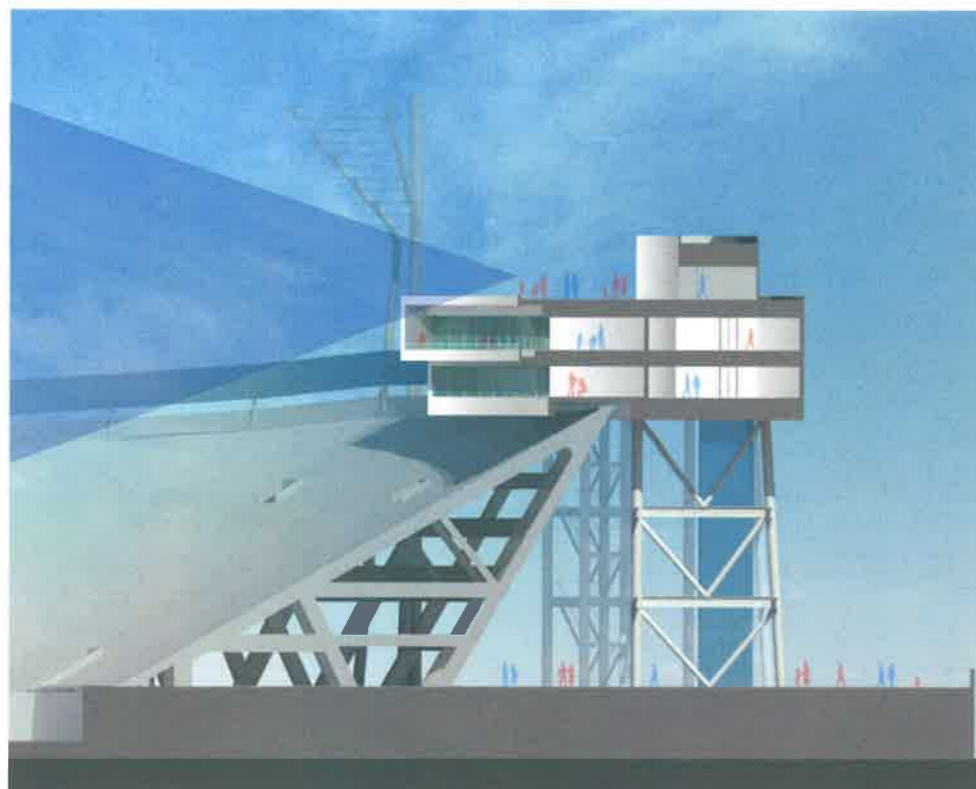
#### Idea 03 噴水を強調する意匠・低層部へのスクラッチタイルの活用



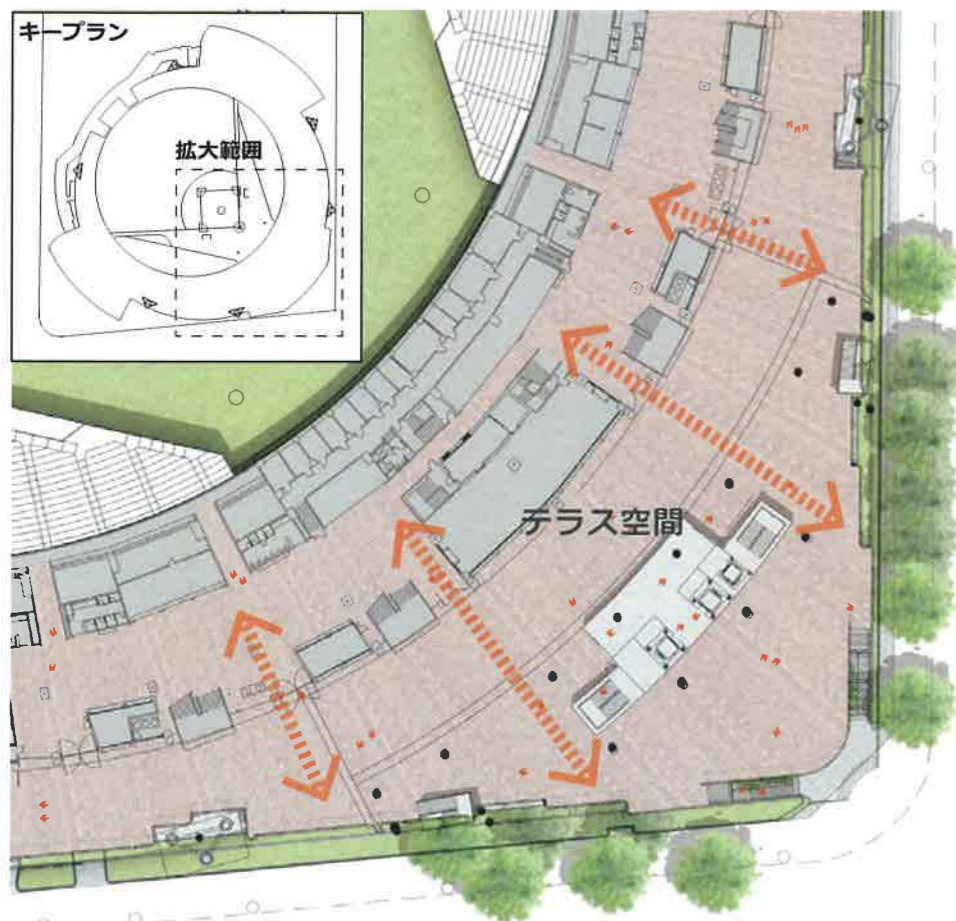
**形態**  
・噴水の存在を強調する意匠

**色・素材**  
・スクラッチタイルを低層部に集約

公園に近い低層部と、スタジアムにメリハリをつける立体的な意匠



バックネット裏の増築部分は、スタジアムを船に見立てた際の船長室として、展望機能を横浜スタジアムに追加します。



公園と一体になったテラスは、イベントスペース等、横浜公園に使い方の幅を持たせます。

## G 船をイメージした外観 3-3

横浜湾岸部の都市景観を一望するバックネット裏の増設部は、船のデザインをモチーフとしています。

横浜らしいイメージを持たせ、2020年のオリンピックを契機として生まれ変わった**新横浜スタジアムのシンボルとしての存在感**を持ったデザインです。

横浜の都市を一望する新たな名所を市民に提供することで野球観戦を目的としない、市民にもこの施設の利用を促す機能を付加します。

世界的にみても魅力的な都市には必ず眺望点が特別な場所として用意されています。国際都市横浜の魅力を更に高めます。



Ship Design Image



### ■大屋根の下のテラス空間の創出

都市スケールの大屋根のかかったテラス空間は、天候に寄らず、公園を利用する人々を迎え入れるスペースです。根岸線側からは、人々を迎え入れるゲートのような形態として、生まれ変わった横浜スタジアムの新たな顔をつくります。さらに、足元の歩行者へ圧迫感を与えることのない形態であることを大切に考えました。光が抜け、足元に光を落とす、明るい立体であるためのフレームは、既存照明塔デザインともつながりを感じさせる白いフレームで構成します。

既存のトイレがある交差点部分には、植栽帯を新たに設け、緑化を重視する横浜市の姿勢を表現する場として考えます。

## 造園デザイン再構築と緑環境の向上 4-1 4-2 4-3

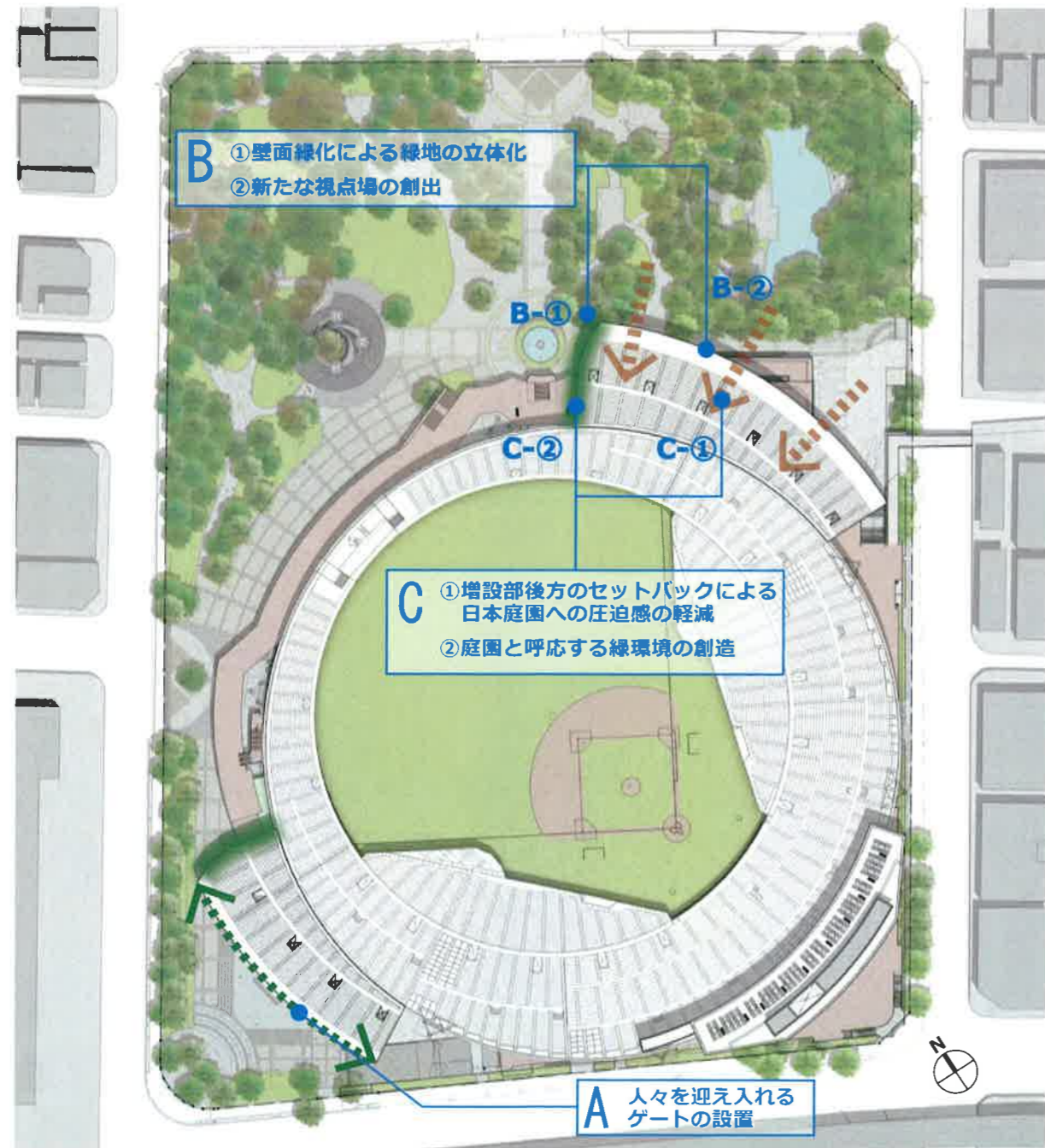
### ■緑化・造園デザインの考え方

- 1 緑化を推進する横浜の新たな顔づくりを行います。
- 2 壁面緑化並びに新たな視点場を創出し、公園機能を向上させます。
- 3 日本庭園とスタジアムの関係を高め合うことを考えます。

### ■緑化・造園設計の方法

日本庭園や公園の緑化イベントとセットで季節感を表現する緑化のデザインとします

- 01 常緑だけではなく、四季折々で様相が変わる種類の植物により緑化することで、横浜らしい緑の顔づくり、並びに日本庭園と呼応したデザインとします。
- 02 日本庭園への圧迫感の抑えた増設を行い、庭園への新たな視点場を設けます。

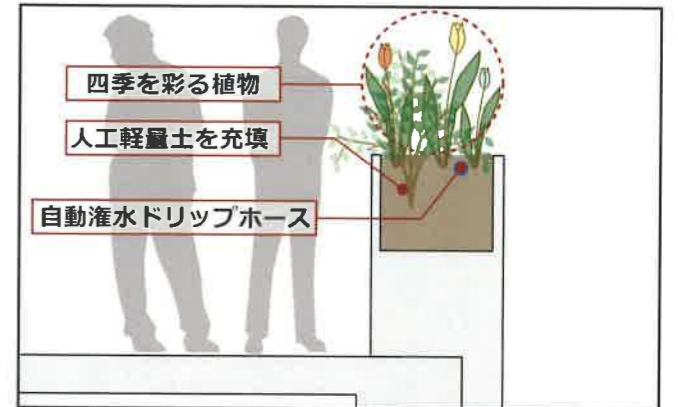


## A 歴史的な背景を感じさせる素材と四季を彩る花々で人々を迎え入れるゲートを設けます



手摺部分にプランターを設け植栽

手摺部分にプランターを設置し緑化します。

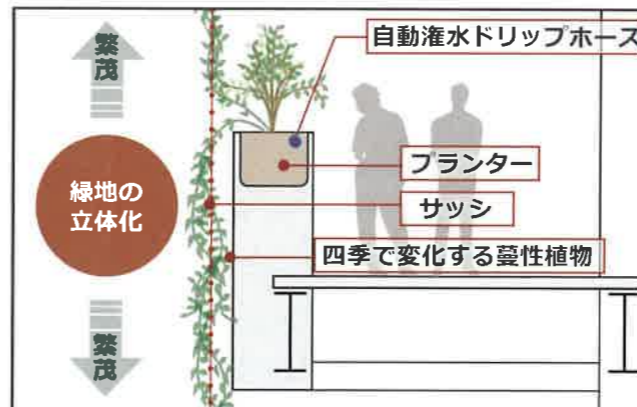


手摺部分緑化 断面イメージ

## B 壁面緑化により緑地を立体化すると共に、新たな視点場を創出し、公園機能を向上させます

蔓性植物を上下に繁茂させ、緑地を立体化

手摺部分のプランターより蔓性植物を上下に繁茂させます。



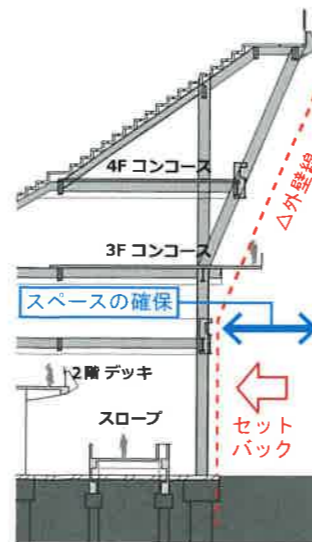
壁面緑化 断面イメージ

新たな視点場の創出(日本庭園側)



## C 日本庭園への圧迫感を抑え、庭園と呼応する緑環境を創造し、一体的に四季を表現します

躯体をセットバックさせ、スタジアムと庭園の間に適度な距離を保ちます。緑化に用いる植物は四季で表情が変わるものを選定します。



断面イメージ



メインプランツ



省管理型とし、植物の自然な登攀、下垂被覆が期待できる蔓性植物を選定します。

ポイントプランツ



四季を彩る花々を選定し、四季折々に表情を変える緑化を実現します。

庭園と壁面緑化部分が運動した、四季を感じる植栽計画

## 周辺環境の調査・分析



①②: 関内駅は明るい上YOKOHAMA STADIUMの文字を点灯させるなど、夜間の賑わいを創出する照明計画。  
③④⑤: 公園の北側は落ち着いた照明計画とすることで、横浜公園特有の歴史ある雰囲気を助長している。



## 抽出される景観特性

関内駅側  
公園の顔として夜間の賑わいを創出するような照明計画  
公園北側  
光量を抑えることで横浜公園の歴史ある夜間景観を阻害しない照明計画



## 夜間照明の考え方

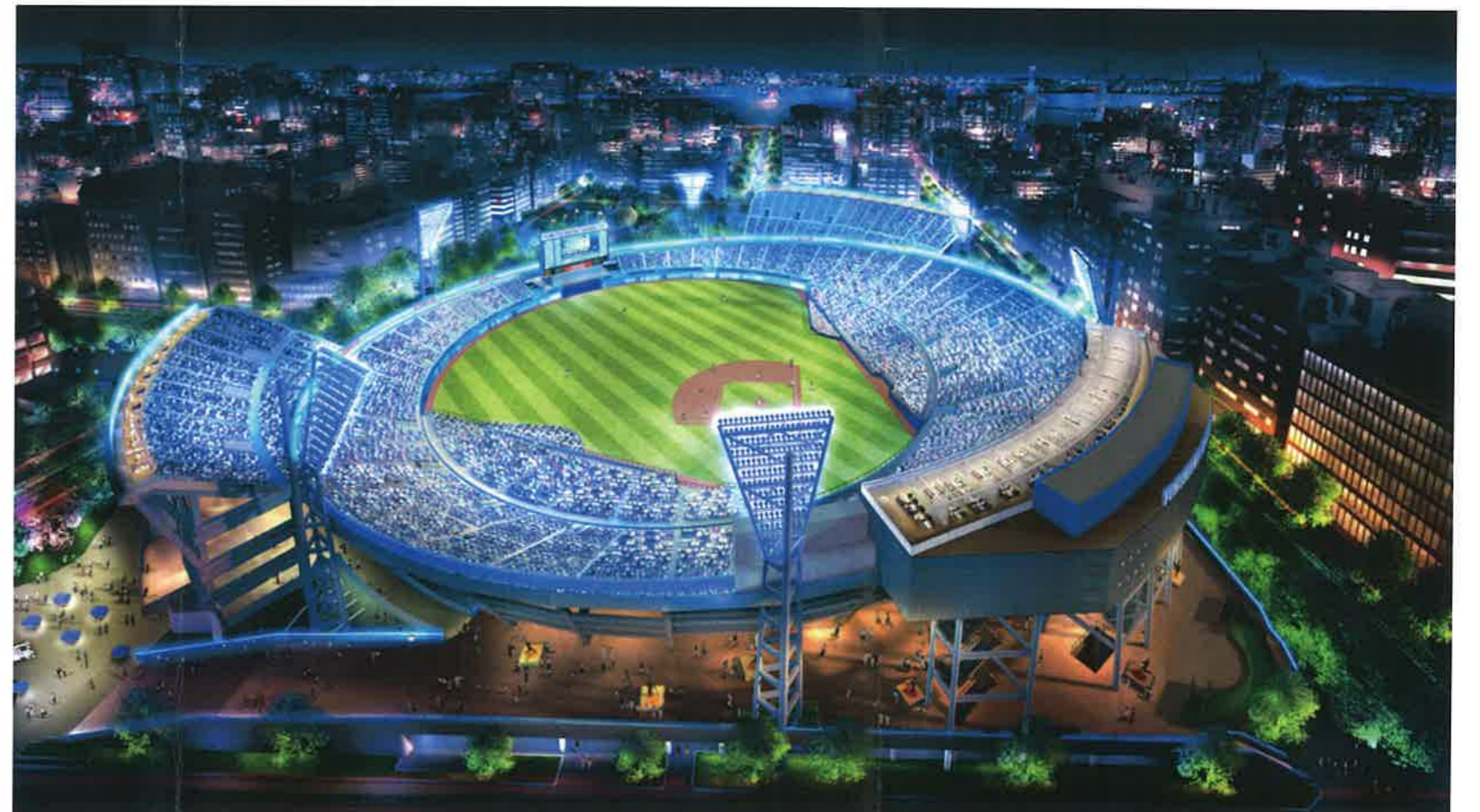
関内駅側  
スタジアムを浮かび上がらせる照明計画とし、夜間の賑わい形成に寄与します  
公園北側  
全体を明るくせず、人のいる場所に落ち着いた照明を行います(防犯性は確保します)



歩行者動線イメージ(夜間): 公園北側は全般を明るくせず、人のいる場所に灯りがある、落ち着いた照明計画とし、防犯性を確保した上で、日本大通り側の夜間景観を阻害しない計画とします。



関内駅側からスタジアムを見る: 既存スタジアムを浮かび上がらせる照明計画とすることで、夜の賑わい形成に寄与し、歩く楽しさを感じられる照明計画とする



前景イメージ(夜間)



